



## 原油先物、2年超ぶり高値 燃料需要への期待高まる

[ニューヨーク 10日 ロイター] - 米国時間の原油先物は上昇。2年超ぶりの高値を付けた。米国の新規失業保険申請件数がパンデミック（世界的大流行）発生以降で最低水準に改善したこと受け、力強い需要への期待感が広がった。

ただ、米財務省がイランの元政府高官3人とイランの石油化学製品の取引に関与していた企業2社に対する制裁を解除したと発表したことを受け、原油先物が売られる場面があった。

清算値は北海ブレント原油先物が0.30ドル（0.4%）高の1バレル=72.52ドル。米WTI原油先物が0.33ドル（0.5%）高の70.29ドル。

北海ブレントにとっては2019年5月以来、WTIにとっては18年10月以来の高値となった。

米労働省が10日に発表した6月5日までの1週間の新規失業保険申請件数（季節調整済み）は37万6000件と、前週の38万5000件から改善し、2020年3月半ばの新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）発生以降で最低水準となった。

ライスタッド・エナジーのアナリスト、ルーズ・ディクソン氏は「最近発表された米国の失業率や雇用関連指標は、米経済の回復加速を示す明確な明るい兆しだ」と指摘。「企業活動が活発になればエネルギー消費量が増え、経済が良くなれば必然的に道路や空路の交通量が増える」と述べた。



## 出光、関電 グループと

出光興産は関西電力（本社大阪市北区）関電エネルギーソリューション（本社大阪市北

区・以下Kenes）と共同で、経済産業省の補助事業「令和3年度蓄電池等の分散型エネルギーリソース（DER）を活用した次世代技術構築実証事業費

補助金」を申請し採択された。2022年度からのFIP制度導入を踏まえ、再エネ発電設備と蓄電池などを組

み合わせて、需給バランス制御技術の構築を目標とする。実証期間は8日から2022年2月17日まで

で。関電堺太陽光発電所（1万キロワット）出光姫路太陽光発電所（1万キロワット）Kenes有田

（700キロワット）淡路風力発電所（1万2000キロワット）といった、関電エリアの再エネ発電所と蓄電池などを用い、

関電のVPPプラットフォーム「K-VIP」の検討を進める。

## 再エネ共同実証事業に参画

## 需給制御技術など構築

コスモは東芝コスモエネルギーホールディングスの100%子会社、コスモエコパワー（本社東京都品川区）は、東芝ネクス

トクラフトベルゲ（本社川崎市幸区）を共同事業のリーダー役とする再生可能エネルギー「アグリゲーション事業」への参画を決めた。同事業は、太陽光発

電や風力発電などの再生可能エネルギー発電設備と、蓄電池などの分散型エネルギーリソース（DER）を組み

合わせ、需給バランス確保のための発電量予測やリソース制御に必要な技術などを実証する取り組み。経済産業

省の「令和3年度蓄電池等の分散型エネルギーリソースを活用した次世代技術構築実証事業費補助金」に採択さ

れている。再生可能エネルギーを巡っては、将来の主力電源化を見据えて2022年4月に、市場連動性を持たせたFIP制度の導入が予定さ

れている。発電事業者には、正確な発電量予測に基づく計画値同時同量の責務が課され、マーケットリスクへの対応も課題になる。

# 低VOCの未硬化シート

## フェノール樹脂単体で

### 住友ベークライト

住友ベークライトは、環境対応型の低VOC（揮発性有機化合物）フェノール樹脂シートを開発した。レゾール型フェノール樹脂を変性してほぼ未硬化状態であるBステージのシートとすることで、接着剤用途や複合材料への含浸用途において作業環境を大きく改善するとともに、保存安定性も劇的に向上、作業時のムラの発生を抑え、接着強度も高める。高温の熱処理を経てもほとんど強度低下しない。溶液系の樹脂に対して有機溶媒の含有量は10分の1以下で、中国でVOC規制が強化されるなど世界的に作業環境改善要求は強まる傾向にあり、需要家からの関心も強いという。まずは2025年に1億〜2億円を販売し、そこから大きく市場を広げていく。

### 接着・含浸用途に照準

住友ベークライトが開発したのは、フェノール樹脂の変性技術を生かし、少ない変性量でシート化した製品。一般的なレゾール型フェノール樹脂溶液は溶媒を乾燥させると高粘度液体となり、

そのままシート化できない。市場にはエポキシ樹脂の硬化剤としてエポキシと組み合わせ使用するケースでなら未硬化シートとして商品化されるケースはあるが、フェノール樹脂単体では極めて

珍しい。溶液系樹脂は5割以上有機溶媒が含まれるのに対し、開発シートは5%以下に抑えられている。期待する用途の一つが接着剤。プラスチック部品と金属やプラスチック



同士を接着するもので、被着体にフェノール樹脂シートを貼り付け、別の被着体を押し付けて熱プレスなどで加熱硬化することで高い耐熱性を持つ接着面が得られる。接着後に250度Cの熱処理を施すと、エポキシ樹脂

の効果も期待できる。また、鉄板同士を接着した場合、塗工に対して安定的な膜厚を付与できることから、溶液状フェノール樹脂と比較して10%以上高い接着強度を示す。含浸用途もターゲット市場の一つ。炭素繊維や

ビンセットでつまめるような柔らかい未硬化シートとして提供する

ガラス繊維と組み合わせる難燃性などに優れたコンポジットを環境低負荷で得られる。C/Cコンポジットなどへの展開も狙う。

コーターで塗工することにより製造する。まずは静岡工場で量産予定で、国内外の需要家に提案。ロール状で出荷し、幅は1600mmまで対応可能。溶液状製品が10度C以下で3カ月程度しか保存できないのに対し、開発シートは常温でも3カ月もち、10度C以下なら半永久的に保管できるという。潜在需要は極めて大きいとみて、フェノール樹脂を使用していない用途も含め、長期の視点で大型製品へと育成していく。



## 内袋・折り畳み式コンテナ

# SUS製レンタル開始

## スキンケア製品向け

住商グローバル・ロジスティクス(住商GL、東京都千代田区、沖廣克也社長)は、内袋・折り畳み式コンテナ「マキシコン」シリーズに、独自開発したオールステンレス(SUS)の新製品「マキシコン・ステンレスJ」を加え、レンタルサービスを開始した。容量は1000ℓで、ローションやクリームといったスキンケア製品の輸送・液体の保管に適している。オールステンレスなので衛生面でも優れており、ISO22716(化粧品GMP)に沿った品質管理体制を構築したいという工場などを対象に普及を図る。

### 住商GL

内袋・折り畳み式のレンタルコンテナ業界トップシェアのマキシコンシリーズは、既存のコンテナとして容量1000ℓの「マキシコン・マーク2」と、小ロット生産に適した容量500ℓの「マキシコン500」があり付け、液体製品を充填する。使い終わって一時保管する。使い終わったライナーバッグは使い切りなので洗浄する必要がない。新製品のマキシコン・

ステンレスJは、すべてにステンレス素材(SUS304)を採用したことで耐食性・耐熱性・衛生性に優れ、におい移りが起きにくいため安心して化粧品を保管できる。上蓋・パネル・パレットすべてが一体化しており、工具なしで一人で簡単に組み立てられる。「マキシコン・マーク2」の周辺機器をそのまま使用できる。

マキシコンシリーズは、オール樹脂製の「マキシコン・プラス」、小ロット生産に適した容量200ℓの「gドラム」も取り揃えており、容器購入費・洗浄費など物流コストの削減や、作業性・安全性・

レンタルサービスを開始した「マキシコン・ステンレスJ」。未使用時は折り畳んで段積みできる



安全性・トレーサビリティの向上、廃棄物の削減などによる環境負荷軽減に貢献する。

北海道から九州まで全国7カ所にサービスセンターがあるため、最寄りのサービスセンターからのレンタル・返却ができる。必要な数量のレンタルが可能。余分な在庫を抱えることがない。使用後の洗浄は不要。全国7カ所のマキシコンサービスセンターで洗浄・メンテナンスする。未使用時は折り畳んで段積みすることにより、輸送コスト、保管スペースを削減し、充填後の段積みもできる。



## シカゴ穀物概況・9日

【シカゴ支局】9日のシカゴ市場でトウモロコシが上昇した。米中西部産地の天気予報を手掛かりに降雨不足による作柄悪化への警戒感が広がり、買われた。バイオ燃料のエタノール向け需要の拡大期待も買いを支えた。米農務省が10日発表する穀物需給を控え、持ち高調整の動きもみられた。7月物終値は前日比10.75セント高の1ブッシュェル=6.9075ドル。

大豆は反落した。前日に上昇した反動から利益確定の売りが出た。一方で産地の天候リスクを意識する買いも入り、下値を支えた。7月物終値は同17.50セント安の15.6250ドル。

小麦は小幅に下げた。穀物需給の発表を前に持ち高調整の売りが出た。7月物終値は同2.75セント安の6.8225ドル。